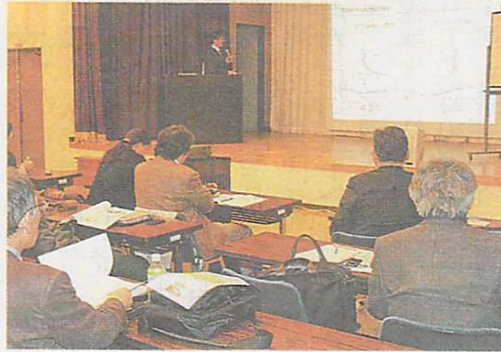


2012年3月17日付・北陸中日新聞

能登の大気研究を報告

金大シンポ 珠洲で始まる

金沢大の第三回能登六日、珠洲商工会議所
総合シンポジウムが十 会館で三日間の日程で



能登での研究成果が報告されたシン
ポジウム＝珠洲商工会議所で

始まり、能登での研究活動の成果が発表された。能登平島の特徴などを説明した。

大学関係者ら四十人が来場し、能登の大気や半島環境などについて報告。金沢大の大気

環境研究・教育の拠点

最終日は、環境科学や再生可能エネルギー、能登の里山里海と生物多様性などについての報告や総合討論がある。

午後二時半からはラポルトすず内で、研究成果を市民らに分かりやすく説明し交流する「サイエンスカフェ」も催す。いずれも入場無料。

(近江士郎)

金大の黄砂研究チームが南極上空の微生物調査に乗り出す。気球を飛ばして大気中の生物粒子「バイオエアロゾル」を採取、DNAなどを分析する。南極大陸の氷床からは微生物が見つかったというが、どこから飛来してきたかなど詳しい研究はほとんど行われておらず、南極特有の微生物の発見につながる可能性があ

金大の黄砂研究チーム

る。

16日に珠洲市で開催された第3回能登総合シンポジウムで、金大の小林史尚准教授が研究の概要を説明した。

計画では、小林准教授が第54次南極地域観測隊の一員と

して11月25日から4カ月間、

昭和基地に滞在。上空千メートルに気球を飛ばし、大気中の微生物を採取する。気球を使った調査は2回を予定し、気象学研究者や気象庁職員と協力する。

小林准教授によると、南極

気球飛ばし 大気を観測

での大気中のバイオエアロゾル研究はイギリスの研究チームが地上調査しただけで、本格的な調査は行われていないという。

金大は2008（平成20）年、珠洲市など3カ所に観測所を設け、気球や航空機を使って大陸から飛来する黄砂や大気中の微生物を調査している。

南極上空の微生物調査

11月から

里山里海研究 あり方を探る

能登総合シンポ

第3回能登総合シン
ポジウムは最終日の17
日、珠洲市の珠洲商工
会議所会館などで開か
れ、参加者は能登の里
山里海や生物多様性の
研究のあり方を探った。

大気科学、生態学の
セッションでは、金大
や福井工大、NPO
などの研究者が発表
した。同市のラポル
トすずではサイエン
スカフェが開かれ、
金大の小林史尚准教
授が南極大陸で計画
する大気中の微生物
調査の概要を紹介し
た。

2012年3月18日付・北國新聞